

2010年8月6日

# 2011年3月期第1四半期決算の概要 (2010年4月～6月)

東レ株式会社

# 目次

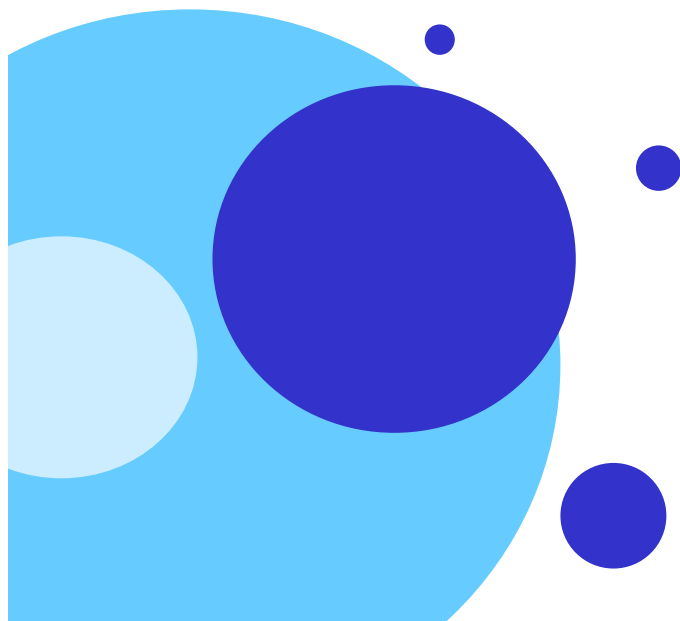
## I. 2011年3月期第1四半期決算の概要

2011年3月期第1四半期連結損益概要	(P3)
営業外収支	(P4)
特別損益	(P5)
資産・負債・純資産、フリー・キャッシュ・フロー	(P6)
設備投資額・減価償却費	(P7)
セグメント別売上高・営業利益	(P8)
セグメント別業績	(P9-16)
営業利益増減要因分析	(P17)
主要子会社収益状況	(P18)

## II. 2011年3月期連結業績見通し

2011年3月期連結業績見通し	(P20)
セグメント別業績見通し	(P21)
セグメント別営業利益の期初見通しとの差異<第2四半期連結累計期間>	(P22)

# I . 2011年3月期第1四半期決算の概要 (2010年4月～6月)



# 2011年3月期第1四半期連結損益概要

単位: 億円

	10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減
売上高	2,787	3,504	+717 (+25.7%)
売上原価	2,313	2,829	+517 (+22.3%)
売上総利益	474	674	+200 (+42.3%)
(売上高総利益率)	17.0%	19.2%	+2.2 ポイント
販売費及び 一般管理費	498	512	+14 (+2.9%)
(売上高販管費比率)	17.9%	14.6%	-3.2 ポイント
営業損益	▲ 24	162	+186 ( - )
(売上高営業利益率)	-0.9%	4.6%	+5.5 ポイント
営業外収支	▲ 52	▲ 17	+35
経常損益	▲ 76	145	+221 ( - )
特別損益	▲ 26	▲ 33	-7
税前提損益	▲ 102	112	+214 ( - )
四半期純損益	▲ 74	86	+161 ( - )

為替レート

<円/US\$>

(10/3 1Q) → (11/3 1Q)

期中平均 : 97.3 → 92.0

期末 : 96.0 → 88.5

<円/ユーロ>

(10/3 1Q) → (11/3 1Q)

期中平均 : 132.6 → 117.0

期末 : 135.5 → 107.8

原油価格

<US\$/バレル> (DUBAI FOB)

(10/3 1Q) → (11/3 1Q)

期中平均 : 59.1 → 78.1

(注) 3月期決算会社は4~6月の業績、12月期決算会社は1~3月の業績を連結

# 営業外収支

億円

	10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減
営業外収益	21	48	+27
受取利息及び配当金	10	12	+2
持分法による投資利益	-	21	+21
雑収入	11	15	+4
営業外費用	▲ 73	▲ 65	+8
支払利息	▲ 25	▲ 18	+7
持分法による投資損失	▲ 7	-	+7
雑損失	▲ 41	▲ 47	-6
営業外収支	▲ 52	▲ 17	+35
金融収支	▲ 15	▲ 6	+9

(注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

# 特別損益

億円

	10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減
特別利益	1	16	+16
有形固定資産売却益	1	1	-0
投資有価証券売却益	-	16	+16
特別損失	▲ 27	▲ 49	-22
有形固定資産処分損	▲ 6	▲ 6	-1
投資有価証券評価損	▲ 20	▲ 28	-8
関係会社事業損失	▲ 0	-	+0
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	▲ 14	-14
その他	▲ 1	▲ 1	+1
ネット特別損益	▲ 26	▲ 33	-7

(注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

# 資産・負債・純資産、フリー・キャッシュ・フロー

億円

	10年3月末	10年6月末	増減
資産合計	15,568	15,954	+386
流動資産	6,405	6,994	+589
有形固定資産	5,803	5,674	-129
無形固定資産	104	102	-1
投資その他	3,256	3,183	-73

	10年3月末	10年6月末	増減
負債合計	10,386	9,772	-614
流動負債	5,140	4,584	-556
固定負債	5,246	5,188	-58
純資産合計	5,182	6,182	+999
有利子負債残高	6,322	5,772	-550
D/Eレシオ	1.34	1.01	-0.33

<フリー・キャッシュ・フローの状況>

億円

	10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減
営業活動	▲1	48	+48
投資活動	▲147	▲59	+88
フリー・キャッシュ・フロー	▲148	▲11	+137

# 設備投資額・減価償却費

億円

	10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減	特記事項
設備投資額	84	82	-2	東レ:15、国内:11、海外:56
減価償却費 ー)	180	170	-9	東レ:85、国内:22、海外:63
振替・除却等	107	▲ 41	-149	
有形固定資産増減	12	▲ 129		

主な設備投資:

<海外>

TBMC (Toray BlueStar Membrane Co., Ltd.) : 水処理膜設備(中国)

TAK (Toray Advanced Materials Korea Inc.) : 光学用ポリエステル(PET)フィルム設備(韓国)



# セグメント別売上高・営業利益

単位：億円

	売上高			営業利益		
	10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減	10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減
繊維	1,121	1,275	+154 (+13.8%)	2	58	+56 (-)
プラスチック・ケミカル	708	942	+234 (+33.1%)	4	55	+51 (-)
情報通信材料・機器	502	636	+134 (+26.6%)	23	83	+60 (+254.2%)
炭素繊維複合材料	99	157	+57 (+57.7%)	▲ 3	▲ 1	+2 (-)
環境・エンジニアリング	222	346	+124 (+55.9%)	▲ 15	▲ 7	+8 (-)
ライフサイエンス	105	118	+13 (+12.7%)	▲ 0	12	+12 (-)
その他	30	31	+0 (+1.4%)	1	1	+0 (+15.3%)
計	2,787	3,504	+717 (+25.7%)	11	200	+190 (-)
調整額				▲ 34	▲ 38	-4 (-)
連結	2,787	3,504	+717 (+25.7%)	▲ 24	162	+186 (-)

2011年3月期から、マネジメント・アプローチに基づきセグメント開示内容を変更しています。  
2010年3月期の数値につきましても、変更後のセグメントに組み替えて表示しています。

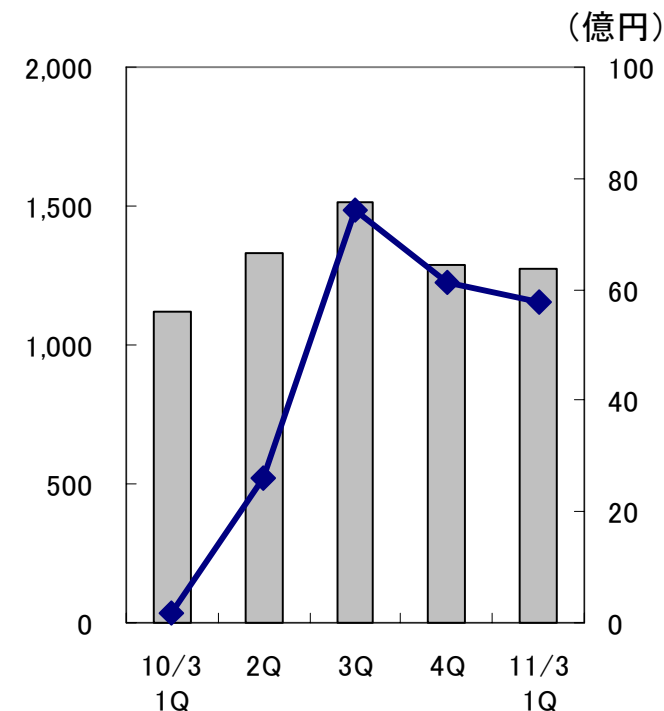
# セグメント別業績(繊維)

単位: 億円

		10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	207	244	+37	(+18.0%)
	国内	576	619	+43	(+7.4%)
	海外	337	412	+74	(+22.0%)
	計	1,121	1,275	+154	(+13.8%)
営業利益	東レ	▲ 7	25	+33	(-)
	国内	7	11	+5	(+71.3%)
	海外	▲ 1	27	+29	(-)
	修正	4	▲ 6	-10	
	計	2	58	+56	(-)

売上高  
＜棒グラフ＞

営業利益  
＜線グラフ＞



## 東レ: 増収増益

産業用途がエアバッグ向け等の自動車関連用途に加え、一般資材用途も堅調に推移し、衣料用途でも販売数量が拡大。

## 国内子会社: 増収増益

需要回復を背景に全般的に堅調に推移。

## 海外子会社: 増収増益

韓国・中国の紙おむつ向けPPスパンボンド事業や、タイやチェコのエアバッグ向け原糸・基布事業、中国のテキスタイル事業をはじめ、産業用途・衣料用途とも総じて堅調に推移。

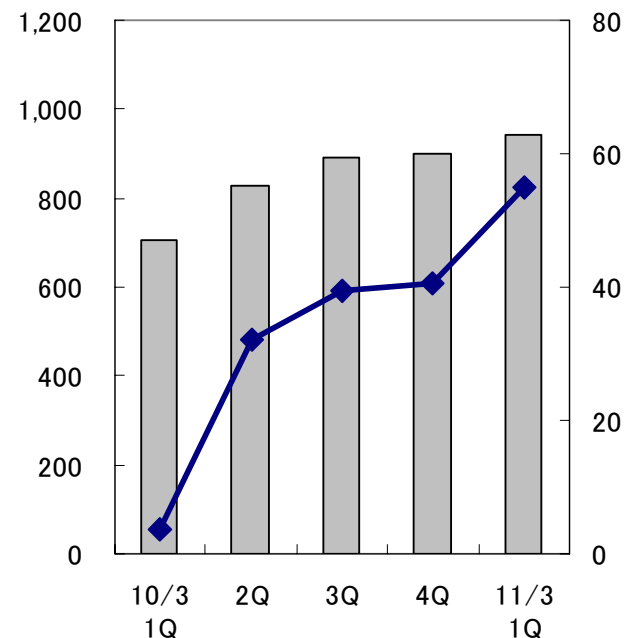
# セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)

単位:億円

		10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	143	182	+39	(+27.4%)
	国内	299	360	+61	(+20.3%)
	海外	266	400	+134	(+50.5%)
	計	708	942	+234	(+33.1%)
営業利益	東レ	▲ 16	13	+29	(-)
	国内	9	22	+13	(+141.0%)
	海外	10	21	+11	(+100.6%)
	修正	0	▲ 1	-1	
	計	4	55	+51	(-)

売上高  
＜棒グラフ＞

営業利益  
＜線グラフ＞  
(億円)



## 東レ: 増収増益

樹脂事業は自動車用途、家電用途をはじめとした各用途で販売数量が拡大。フィルム事業では、太陽電池バックシート用途やハイブリッドカー向けコンデンサー用途等をはじめとした工業材料用途に加え、包装材料用途も堅調に推移。

## 国内子会社: 増収増益

製造子会社、商事子会社ともに、総じて堅調に推移。

## 海外子会社: 増収増益

アジアのフィルム子会社が堅調に推移。マレーシアの樹脂子会社はアセアン向け需要が堅調に推移するとともに、原燃料価格高騰に対して価格転嫁を推進。

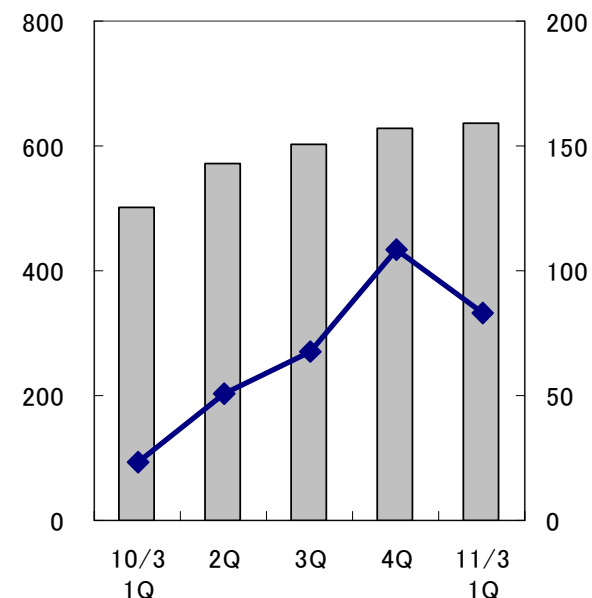
# セグメント別業績(情報通信材料・機器)

単位: 億円

		10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	219	272	+53	(+24.3%)
	国内	170	183	+14	(+8.0%)
	海外	114	181	+67	(+58.9%)
	計	502	636	+134	(+26.6%)
営業利益	東レ	7	53	+46	(+670.7%)
	国内	11	11	-0	(-1.4%)
	海外	5	19	+14	(+304.9%)
	修正	1	1	-0	
	計	23	83	+60	(+254.2%)

売上高  
<棒グラフ>

営業利益  
<線グラフ>  
(億円)



## 東レ: 増収増益

需要の旺盛なFPD用途や電子部品用途等でフィルム及びフィルム加工品が好調に推移。半導体関連材料、PDP用材料等も数量を伸ばした。

## 国内子会社: 増収利益横這い

フィルム加工子会社は、FPD関連フィルム加工品の販売が好調に推移するも、IT関連機器子会社は、売上が減少。

## 海外子会社: 増収増益

韓国子会社のフィルム及びフィルム加工品、回路材料が好調に推移。

# 情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

## 【サブセグメント別売上高比率】

単位：億円

	10/3期 第1四半期		11/3期 第1四半期		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	187	37%	261	41%	+39%
電子部品・半導体・回路材料	160	32%	234	37%	+46%
記録材料	65	13%	81	13%	+24%
機器他	89	18%	60	9%	-33%
情報通信材料・機器セグメント合計	502		636		+27%

ディスプレイ材料：FPD用フィルム及びフィルム加工品を中心に、販売量拡大。

電子部品・半導体・回路材料：電子部品用フィルム及び回路材料を中心に、販売量拡大。

記録材料：熱転写リボン用フィルム及び印刷材料の拡販を推進。

機器他：2009年度の受注高減少を背景に、液晶カラーフィルター製造装置を中心に販売が低調に推移。

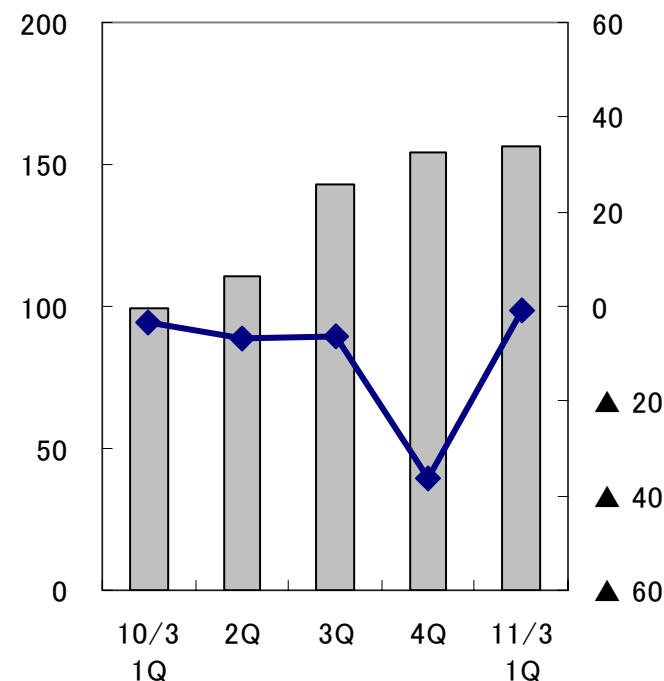
# セグメント別業績(炭素繊維複合材料)

単位:億円

		10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	73	121	+48	(+65.4%)
	国内	46	83	+38	(+82.3%)
	海外	60	112	+52	(+86.0%)
	修正	▲ 80	▲ 160	-80	
	計	99	157	+57	(+57.7%)
営業損益	東レ	▲ 11	2	+13	(-)
	国内	0	1	+1	(+250.0%)
	海外	▲ 3	▲ 1	+2	(-)
	修正	10	▲ 3	-14	
	計	▲ 3	▲ 1	+2	(-)

売上高  
＜棒グラフ＞

営業利益  
＜線グラフ＞  
(億円)



**東レ: 増収増益**

**国内子会社: 増収増益**

**海外子会社: 増収増益**

航空・宇宙、スポーツ、一般産業の各用途とも需要が回復基調となり、サプライチェーン各段階での在庫調整が進み、販売数量が大きく拡大。

本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

# 炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

## 【サブセグメント別売上高比率】

単位：億円

	10 / 3期 第1四半期		11 / 3期 第1四半期		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	34	35%	59	38%	+71%
スポーツ	19	19%	32	21%	+71%
一般産業	46	46%	65	42%	+42%
炭素繊維計	99	100%	157	100%	+58%

航空宇宙：既存機向け需要が回復傾向。787向け出荷も計画通り推移。

スポーツ用途：ゴルフ、釣竿、自転車等各用途とも需要が回復。

一般産業用途：CNGタンク用途やパソコンの筐体用途等を中心に回復基調。

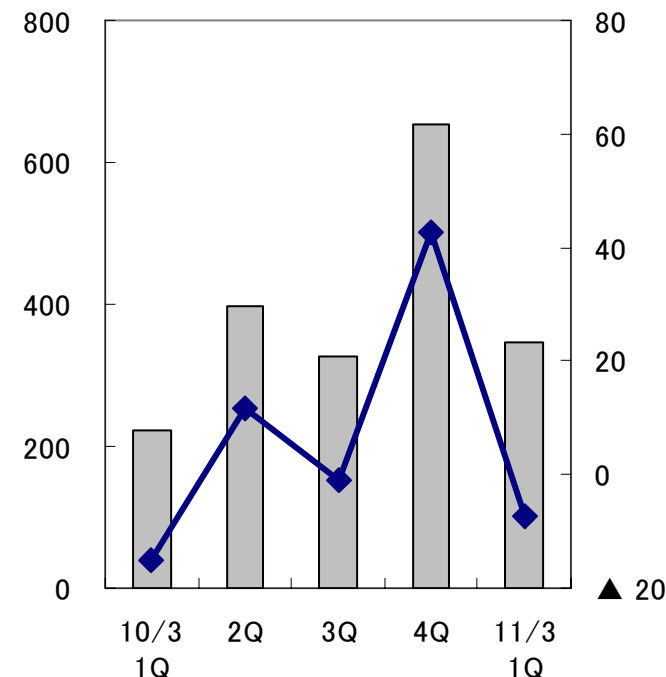
# セグメント別業績(環境・エンジニアリング)

単位: 億円

		10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	12	26	+13	(+107.8%)
	国内	203	310	+107	(+52.8%)
	海外	6	10	+3	(+54.1%)
	計	222	346	+124	(+55.9%)
営業損益	東レ	▲ 5	▲ 7	-2	(-)
	国内	▲ 7	▲ 0	+6	(-)
	海外	▲ 3	▲ 0	+3	(-)
	修正	0	1	+1	
	計	▲ 15	▲ 7	+8	(-)

売上高  
<棒グラフ>

営業利益  
<線グラフ>  
(億円)



## 東レ: 増収減益

逆浸透膜をはじめとした水処理膜の拡販を推進。

## 国内子会社: 増収増益

エンジニアリング子会社が環境関連機器の拡販を進め、商事子会社は機械輸出の取扱高を拡大。

## 海外子会社: 増収増益

米国子会社が、逆浸透膜の販売量を大幅に伸ばした。



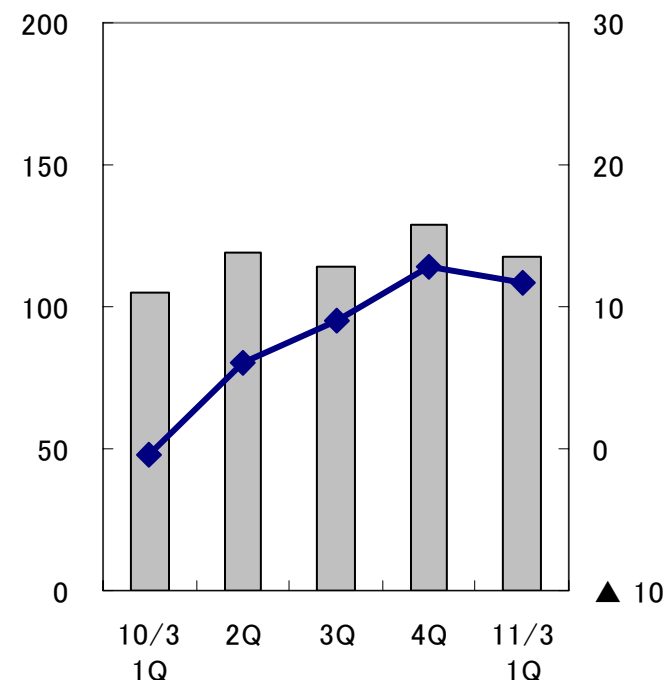
# セグメント別業績(ライフサイエンス)

単位: 億円

		10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	18	29	+11	(+60.1%)
	国内	81	85	+4	(+5.5%)
	海外	5	3	-2	(-40.7%)
	計	105	118	+13	(+12.7%)
営業損益	東レ	▲ 1	9	+10	(-)
	国内	▲ 2	2	+3	(-)
	海外	0	0	-0	(-18.2%)
	修正	1	1	-1	
	計	▲ 0	12	+12	(-)

売上高  
＜棒グラフ＞

営業利益  
＜線グラフ＞  
(億円)

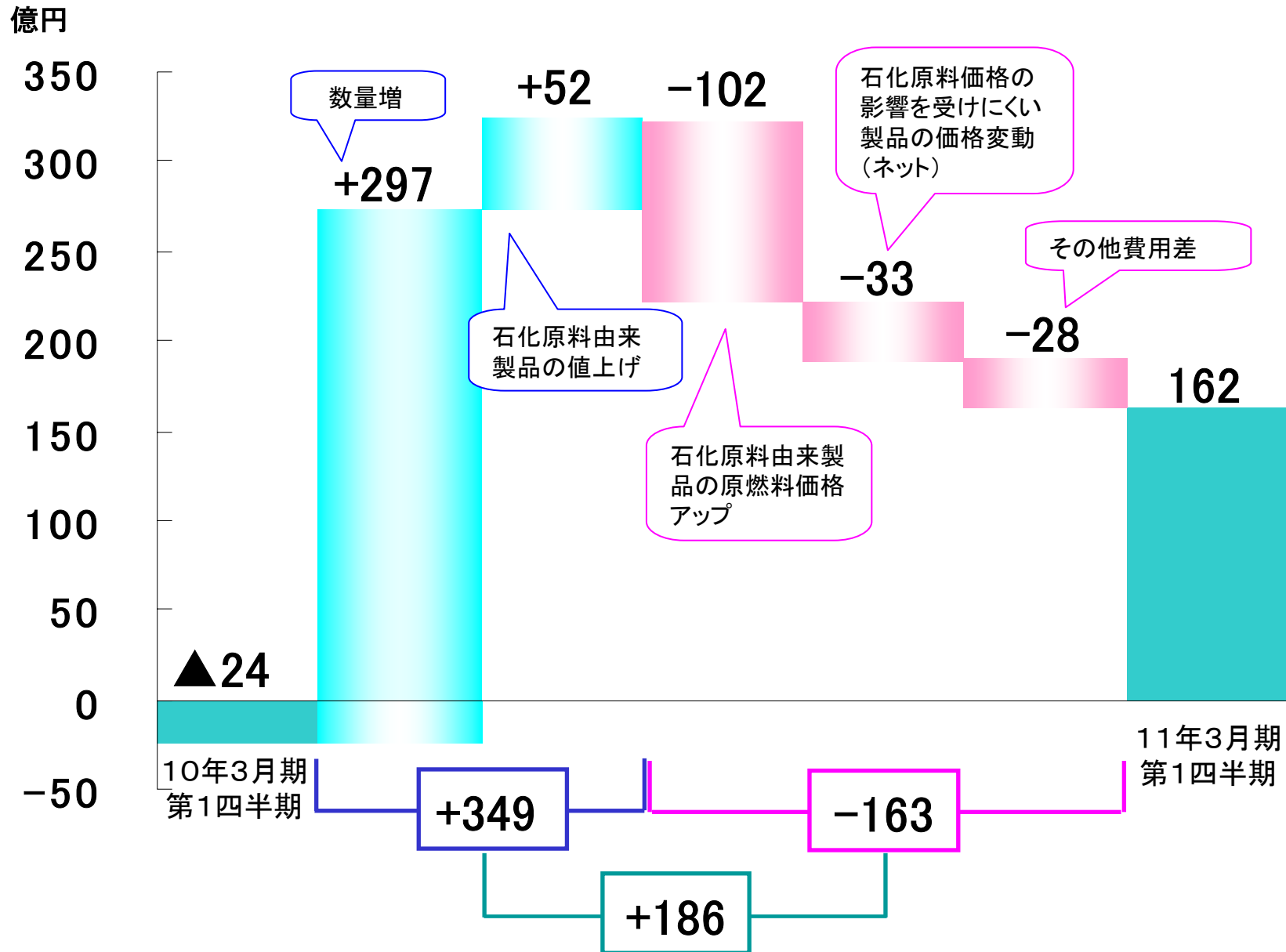


**東レ: 増収増益**

**国内子会社: 増収増益**

昨年10月に国内でのC型慢性肝炎に対するリバビリンとの併用の効能追加の承認を取得した天然型インターフェロンベータ製剤「フェロン」の販売数量が伸びたことに加え、エンドトキシン除去向け吸着型血液浄化用浄化器「トレミキシン」の出荷も好調に推移。

# 営業利益増減要因分析



# 主要子会社収益状況

単位:億円

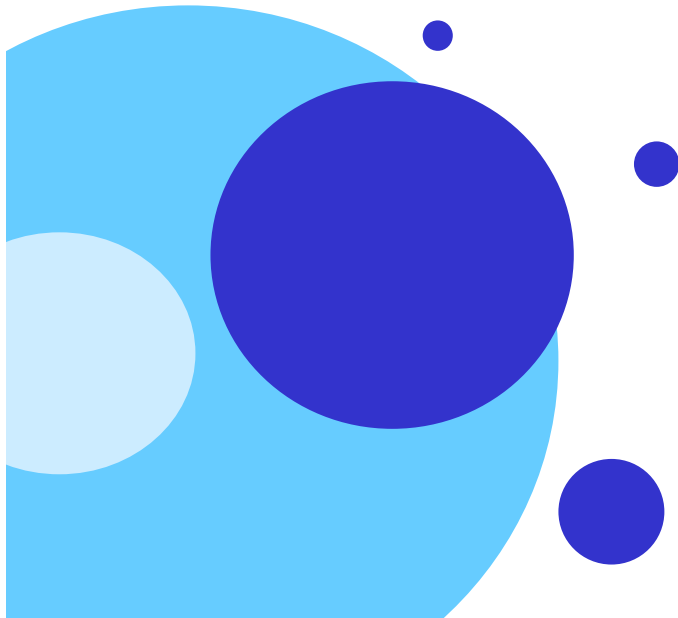
		売上高			営業利益		
		10年3月期 1Q実績	11年3月期 1Q実績	増減	10年3月期 1Q実績	11年3月期 1Q実績	増減
東レインターナショナル		679	972	+294	11	12	+2
東レエンジニアリング		169	153	-16	7	5	-2
東レ建設		66	62	-3	▲2	▲3	-1
東レフィルム加工		105	139	+34	3	11	+8
東レ・メディカル		82	86	+4	▲2	2	+3
TAK(韓国)		139	212	+73	11	26	+15
TPM(マレーシア)		127	175	+48	4	6	+2
在東南アジア・子会社 *1	繊維	164	213	+49	▲2	6	+8
	プラスチック・ケミカル	137	201	+64	5	11	+6
	その他	15	20	+4	0	1	+0
	計	316	433	+117	3	17	+15
在中国・子会社 *2	繊維	142	185	+43	▲5	6	+11
	プラスチック・ケミカル	57	99	+43	▲1	3	+3
	その他	19	24	+5	▲0	1	+1
	計	217	308	+91	▲6	10	+15
在外・フィルム子会社 *3	プラスチック・ケミカル	135	185	+50	7	9	+1
	情報通信材料・機器	62	110	+48	2	15	+13
	計	197	295	+98	9	24	+15

\*1:ITS、ETX、ISTEM、ACTEM、CENTEX、Penfibre、PAB-G、TTS、LTX、TTTM、TPM 単純合計

\*2:TFNL、TSD、TJQ、TPN、TCH、TSL、THK-G、TPHK/TPSZ、RKH/RKZ、TFH/TFZ、TBMC 単純合計

\*3:TAK、Penfibre、TPA、TPEu、TFE、TFH/TFZ 単純合計

## Ⅱ. 2011年3月期連結業績見通し



# 2011年3月期連結業績見通し

## <第2四半期連結累計期間>

(億円)

	前年同期 実績	今回見通し	増減	期初見通し	期初見通し との差異
売上高	6,179	7,300	+1,121 (+18.1%)	7,000	+300
営業利益	55	360	+305 (+555.4%)	200	+160
経常損益	▲ 27	330	+357 (-)	150	+180
当期純損益	▲ 63	200	+263 (-)	80	+120

## <通期>

(億円)

	前期実績	今回見通し	増減	期初見通し	期初見通し との差異
売上高	13,596	15,300	+1,704 (+12.5%)	15,000	+300
営業利益	401	760	+359 (+89.5%)	600	+160
経常利益	90	680	+590 (+655.1%)	500	+180
当期純損益	▲ 142	370	+512 (-)	250	+120

備考：為替レート的前提は、90円/US\$ (7月以降)、原油価格的前提は、78US\$/B(DUBAI FOB) (7月以降)

# セグメント別業績見通し (売上高／営業利益)

(億円)

	10年3月期実績			11年3月期 今回見通し			対前年同期比 増減			11年3月期 期初見通し との差異		
	上期	下期	計	上期	下期	計	上期	下期	計	上期	下期	
売上高	繊維	2,451	2,801	5,252	2,700	2,900	5,600	+249	+99	+348	+100	—
	プラスチック・ケミカル	1,537	1,790	3,327	1,900	1,900	3,800	+363	+110	+473	+100	—
	情報通信材料・機器	1,073	1,231	2,304	1,350	1,400	2,750	+277	+169	+446	+50	—
	炭素繊維複合材料	210	297	507	330	350	680	+120	+53	+173	+30	—
	環境・エンジニアリング	618	980	1,598	700	1,100	1,800	+82	+120	+202	—	—
	ライフサイエンス	223	243	467	250	270	520	+27	+27	+53	+20	—
	その他	67	74	141	70	80	150	+3	+6	+9	—	—
	連結	6,179	7,417	13,596	7,300	8,000	15,300	+1,121	+583	+1,704	+300	—
営業利益	繊維	28	136	163	135	130	265	+107	-6	+102	+45	—
	プラスチック・ケミカル	36	80	116	100	90	190	+64	+10	+74	+30	—
	情報通信材料・機器	74	176	250	200	170	370	+126	-6	+120	+60	—
	炭素繊維複合材料	▲ 10	▲ 43	▲ 53	10	▲ 10	0	+20	+33	+53	+20	—
	環境・エンジニアリング	▲ 3	42	39	▲ 20	60	40	-17	+18	+2	—	—
	ライフサイエンス	6	22	27	25	30	55	+19	+8	+28	+15	—
	その他	1	7	9	0	10	10	-1	+3	+1	-10	—
	調整額	▲ 76	▲ 74	▲ 149	▲ 90	▲ 80	▲ 170	-14	-6	-21	—	—
連結	55	346	401	360	400	760	+305	+54	+359	+160	—	

# セグメント別営業利益の期初見通しとの差異

＜第2四半期連結累計期間＞

(億円)

セグメント	営業利益 期初見通し→ 今回見通し ( )内差異	増減益要因
繊維	90 → 135 (+45)	・需要回復に伴い、産業用、衣料用ともに販売好調。
プラスチック ・ケミカル	70 → 100 (+30)	・需要回復に伴い、樹脂の家電用途や太陽電池バックシート向けPETフィルムを中心に販売好調。
情報通信材料 ・機器	140 → 200 (+60)	・FPD関連材料をはじめとして販売好調。
炭素繊維 複合材料	▲10 → 10 (+20)	・原燃料価格の高騰の影響は受けるも、販売が好調に推移するとともに、減産率が期初見通しよりも緩和。
環境・エンジニアリング	▲20 → ▲20 (±0)	・ほぼ期初見通し通りに推移。
ライフサイエンス	10 → 25 (+15)	・効能追加の承認を取得した天然型インターフェロンベータ製剤「フェロン」の販売が好調。
その他	10 → 0 (-10)	・研究受託サービス子会社の受注低迷。
調整額	▲90 → ▲90 (±0)	
連結	200 → 360 (+160)	

本資料中の2011年3月期の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。